

蛭 cry 麻

日程：2024/7/5~7

メンバー：矢萩（リーダー）、石綱、大貫、重川、鈴木、寺尾、本田（記）

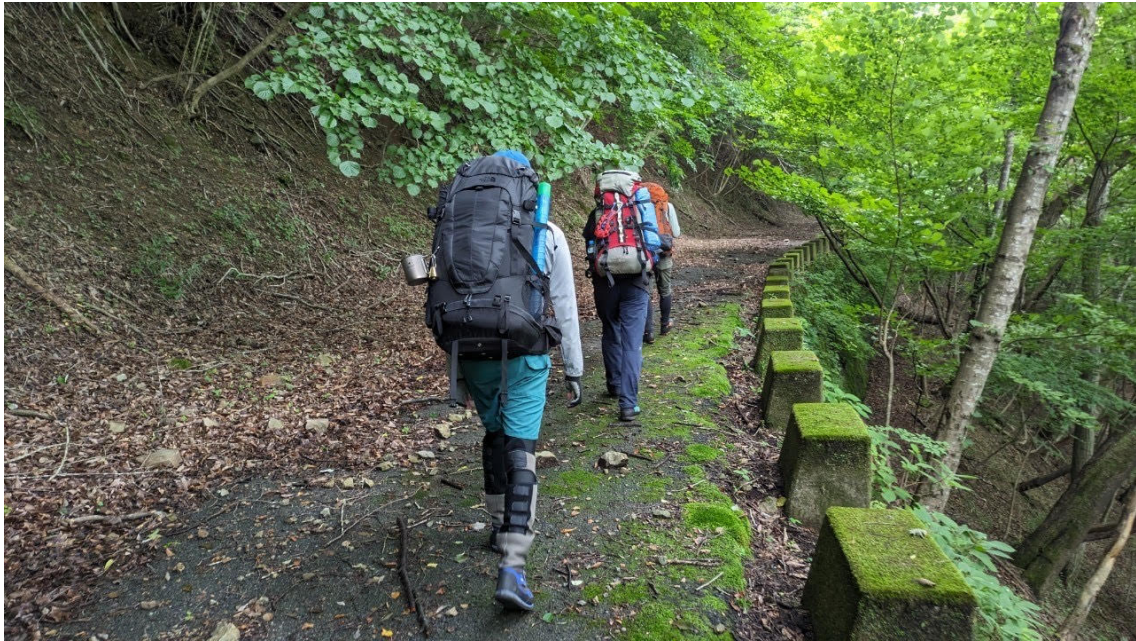
これは2024年7月5~7日にかけての前夜祭を含む水トレの記録であると同時に、蛭との戦いの記録である。

7月5日（金）の夜、買い出しを済ませ一番乗りで前夜祭会場である「○○園地」へと向かう。園地と名が付いている手前、遊園地一步手前ぐらいの穏やかで環境の整った会場を勝手に想像していた。だが、渓遊会のベテラン勢が選定した場所、そんな穏やかな場所ではない事を痛感させられる事となる。

通りから横に一本、更に一本と道を進めると、鳥居にも似た赤いバリケードが車一台分通れるギリギリの間隔で妖しく手招きをしている。この時点で、「あれっ、思ってたんと違うぞ」と思わず独り言つ。そこから更に傾斜がきつくなり、人知れず上方から落ちて来たであろう葉、枝、岩石に怯み、思わず二駆から四駆に切り替える。更に進めると、自分でも何とか動かす事のできそうな倒木があり、サンダルのまま車を降りた。ここから蛭に泣かされ、痺れさせられる日々が始まる。

退けた倒木の先には人間の力だけでは退かす事のできない太い倒木があり、諦め下る事にした。下では石綱さんが待機していて、他のメンバーにもすぐに連絡して下さり、安堵した。開けた所があり、そこを前夜祭会場にするべく整えていると両足に違和感を覚えた。蛭だ。蛭が血を吸って小指程の大きさになっている。山の知識がまだまだ浅い私でも、引っ張って剥がす事は禁忌だと知っていた為、石綱さんにライターで炙って取ってもらった。それでもサンダルが、火鍋のように真っ赤になる程の血が出ていた。気を取り直して、二人で乾杯し楽しい宴の開始となる。その後は鈴木さん、矢萩リーダーと合流し明日に備えての英気を養った。

翌朝、大貫さん、寺尾さんも合流し出発となる。林道から沢に降りる間も歩くたびに蛭が足に纏わり付いてくる。沢に入り少し進むとよじ登らなければならぬ滝が現れ、いよいよ水トレらしくなる。場慣れしている大貫さんがサクサクと上りアドバイスをしてくださるも、足を上手く引っ掛ける事の出来なかった私は落ちてしまった。それを見て大貫さんがロープを投げてくれ、昔見たリポビタン〇のCMの様になんとか登ることができた。そこから何箇所か泳ぎやへつらなければ行けない場所があったが、皆さんのアドバイスやサポートのお陰もあり、なんとかやり過ごすことが出来た。



この林道から蛭との戦いが始まります



大貫さんのサポートで何とか上る事ができました

そして、ヒル休憩では冷えた身体に有り難い辛味噌ラーメンを頂き、ホッと一息を付いていると鈴木さんが自身の足に付いた黒い物に手を伸ばした。また蛭か！と思いきよく見ると、立派で厳めしい顔立ちのミヤマクワガタだった。天然のミヤマクワガタを見たのは初めての事だったので、嬉々として思わず様々

な角度から写真を撮った。休憩後は竿を出しながら進むも一向に釣れず、あっという間にテン場に着いた。



かっこいいミヤマクワガタ

テン場では、ベテランの方達があつという間にタープを張り、私は薪や石を集めた。石を使って小川にダムを作っていると小さな沢蟹を発見し、ここでもまた少し嬉しくなった。薪に火を付け一段楽すると、鈴木さんと共にテン場から少し下った所から釣りスタート。鈴木さんは新調したばかりというロッドとリールを使い、的確なキャストで岩魚が居着いていそうな場所を探っている。しばらくすると鈴木さんの竿に 20 センチ前後、私は餌で 10 センチ程度を釣るも共にリリース。テン場を少し過ぎた辺りで鹿が物珍しそうにこっち見ている、ふと「もののけ姫」のワンシーンを思い出す。何かを期待せずにはいられない光景であった。するとすぐに、鈴木さんの竿が大きくしなる。本人も根掛かりかと思うほどの強い引きで、釣り上げると尺前後。ポテッとしたお腹の立派な岩魚であった。二人でこれは刺身に出来ますねとホクホクした笑顔で針を外していると、急に暴れた勢いで自然と針が外れ流れの中にフェードアウト。期待値が高かっただけに悲しみも大きい。



幻となった尺近くの岩魚

悲しみにくれているのも束の間、荷物を取りに行くから手伝ってくれとの事。ここで竿を納め、皆に付いて 5 分ほど歩くと一台の大きな車が。重川さんが林道を高級車で攻めて来たのだ。トランクの中には1つの大きな桶があり、中にはなんと生寿司が入っているとの事。源流に寿司という有り得ない取り合わせに驚きを隠せないものの、幻となった岩魚の刺身を想像していた口内はすぐによだれで満たされた。鈴木さんと私で駕籠に乗った殿を運ぶがごとく、慎重に桶を担ぎテン場へと向かう。ただこの桶、立派が故に重い。重過ぎるのだ。二人で足場の悪い中、倒したら打ち首必死のプレッシャーで心と体が悲鳴を上げそうになるも、大貫さんが最後まで運び切ったら岩魚の樂園に連れて行ってやるの一言で覚悟を決める。がしかし、途中で傾けずに行ける自信が無くなるほどの傾斜を前にバトンタッチ。岩魚の樂園は夢のまた夢となった。



寿司の入った立派な桶

テン場に戻り 7 人全員が揃ったので皆で乾杯し、思い思いにそれぞれが調理し始める。私はと言うと、初めての源流飯にゴーヤチャンプルーをチョイス。これが素人ならではの間違いだった。おもむろに豆腐を出すと、皆から豆腐は腐りやすいから源流には向いてないとの事。冷やしてくれば問題はないと思ったが、水分が漏れる可能性や足の早さを考えると源流ではリスクを減らすに越した事はないのは定石。開始早々自分の浅はかさに面喰らう。そして、調理工程の多さと手際の悪さで、皆が次々と美味しい料理を仕上げている中で一人誰

よりも時間が掛かってしまった。そんな中でも、皆さんはとても温かく見守って下さり、私に寿司やトマトカレー、美味しい数々のつまみを取り分けて下さった。お酒も進み私は早々にノックアウト。しかし、ここも蛭スポットの為、嚴重に寝袋につつまれて就寝。宴の途中から降り出した雨音にも動じず翌朝まで熟睡。



重川さんから差し入れの源流寿司



大貫さん特製トマトカレー&矢萩さんが焚き火で丁寧に燻したベーコン

木漏れ日で目を覚ますとやはり数カ所蛭に吸血された跡が。しかし、ここま
でくると慣れて来たのかそんなに気にならなくなる。朝ごはんを頂き皆で記念
撮影をする。ここで寺尾さんと重川さんと別れ、5人で下山し始める。帰りは
沢の上のハイウェイを使ったこともあり、あっという間に駐車場へ。



水トレ記念撮影

今回初めての水トレであったが、学ぶ事が沢山あった様に思う。蛭との戦いに想いを馳せながら、次回は常温長期保存可能の紙パックに入った豆腐を購入して麻婆豆腐でも作ってリベンジしようと心に誓い帰路についた。